

# ころばん体操 出前講座 中井原公民館

平成28年9月7日(水) 9:30~11:00

参加者 計11名 (男性4名 女性7名)

## I・「いつまでも自宅で暮らすために」…(在宅医療)

いちき串木野市包括支援センター 保健師久保小百合

今、行政と地域医療や介護の機関と共同で在宅医療と介護連携の推進を進めています。いつまでも自宅で過ごしていただくために、どんな支援が必要かなどをみんなで検討しながら実現できるように進めています。今日は、在宅医療の訪問看護についてご紹介したいと思います。

## II・「がんばりすぎない介護を応援します」マイライフノートについて

いちき串木野市医師会 在宅医療推進コーディネーター 南新 敦子

介護が必要になったり、在宅医療や介護の心配な時に少しでも介護の負担を軽くしたり、心配ごとの相談を聞いてサポートしていきたいと考えています。

マイライフノートは、もしもの時のために、ご本人の思いや介護や治療についての希望などを書き留めておくノートです。お元気な時にご家族と一緒に考えておかれることも大事かもしれません。



かなり、白熱した意見が積極的に次から次に交わされていました。皆様の色々な思いを聞かせて頂き貴重な時間でした。また、マイライフノートにそれぞれの思いの記入もお願いしました。

### 参加者の声

**A:** 以前の在宅医療は退院するとき、ただ自宅に帰れと言われて追い出されるように退院させられていた。介護者の希望は聞いてくれなかったが、今そのような事ではないんですか？

**Q:** 今病院も自宅退院するにあたり、自宅受入れの準備や環境を整えてから退院を進めるように考え方を変わってきています。

介護保健が始まってからは、在宅で介護を支援するサービスを整えてきている所です。

「在宅生活って言うけどそんなに簡単にはいかないと思う。子供たちが近くに居るわけでもないし、子供たちに面倒を見てくれともいえないし、言いたくない。自分は施設と思っている。」

・国は、在宅介護と言いながら自宅に介護者を押し付けようとしている印象がある。

延命処置について国はどう考えているのか、高度な医療で寝たきりの入院患者を増やして医療負担がかかっている状況もあるのではないのか。最終的に安楽死について国はなにか会議をしているのか…